



From the people of
JAPAN



世界の平和と安定のために

我が国の国際平和協力30年のあゆみ



内閣府 国際平和協力本部事務局

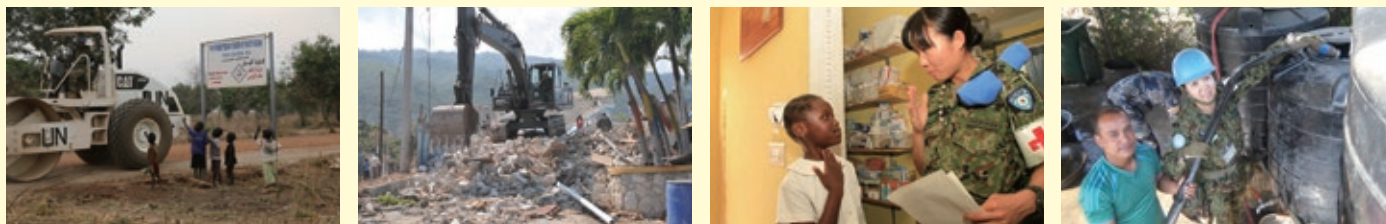
<https://www.cao.go.jp/pko/>



@cao_pko



施設部隊



道路の補修、がれきの除去、避難民への医療や給水などを行いました。

(写真：[左から]南スーダン、ハイチ、ハイチ、南スーダン)

※地名は紛争等の発生場所（実際の派遣先等は異なる場合あり。6ページも同じ。）



国際平和協力法制定から 30 年

今年 2022 年は、国際平和協力法が制定されてから、30年の節目に当たります。

国際平和協力法は、1990 年 8 月の湾岸危機を機に、我が国も人的側面での国際貢献を行うべく、国会審議を経て、1992 年 6 月に成立・公布、同年 8 月に施行されました。

その年の 9 月以降、国連カンボジア暫定機構（UNTAC）に、停戦監視要員、自衛隊施設部隊、文民警察要員、そして選挙要員が順次派遣され、我が国の国際的な平和協力活動が本格的に始まりました。このカンボジアでの活動中には大変残念なことに、国際平和協力隊員であった高田晴行警視が殉職されました。改めて、これまでに殉職された日本人の皆様のご冥福をお祈りしたいと思います。

我が国はこれまでに 28 のミッションに延べ 12,500 名以上の人的協力、29 回にわたる物資協力を実施してきました。現在は、国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）に 4 名、エジプトのシナイ半島に展開している多国籍部隊・監視団（MFO）に 2 名、計 6 名の司令部要員を派遣しています。また、我が国は 2015 年から始まった国連三角パートナーシップ・プログラム（UNTPP）などを通じ、他の要員派遣国に対して能力向上のための支援を行っています。

我が国はこれまで累次にわたり、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献することを表明してきています。国際平和協力法の制定から 30 年、我が国は多くの経験や蓄積を得ました。これを踏まえ、引き続き、国際平和協力に積極的に貢献してまいります。

内閣府国際平和協力本部事務局長 久島 直人

平和協力

輸送部隊



部隊や資機材などの海上輸送、救援物資の空輸などを行いました。

(写真：[左]カンボジア、[右]アフガニスタン)

司令部要員



ミッションを統括する組織で計画づくりなどを行いました。

(写真：[左]モザンビーク、[右]ゴラン高原)

選挙監視要員



選挙の公正な執行の監視などを行いました。

(写真：東ティモール)

文民警察要員



警察行政事務に関する助言などを行いました。

(写真：東ティモール)

連絡調整要員

派遣された国際平和協力隊と関係機関との連絡調整などを行いました。

軍事監視要員



武装解除の履行の監視などを行いました。

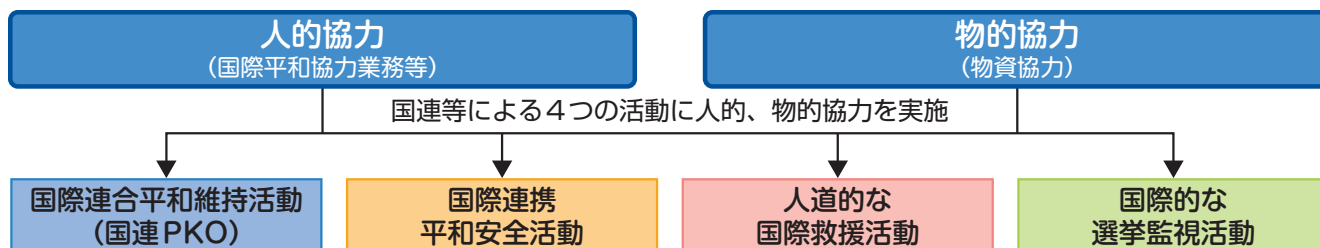
(写真：ネパール)

物資協力



テント、ビニールシートなどの物資の提供を行いました。(写真：[左]シリア、[右]南スーダン)

●国際平和協力法のイメージ





カンボジア（1992年9月～1993年9月）



- 我が国の初めての本格的なPKO活動です。
- 武装解除のため集められた武器の保管状況や停戦遵守状況の監視、選挙の公正な執行の監視、現地警察に対する助言・指導・監視、道路や橋の修理などの協力を行いました。
- 憲法制定議会選挙に協力するため、国連カンボジア暫定機構（UNTAC）に、選挙に向けての広報・教育用として視聴覚機材（例：テレビ、ラジオ）や武装解除される20万人の兵士とその家族の健康管理のための医薬品を提供しました。



東ティモール

1999年7月～9月、1999年11月～2000年2月、
2001年8月～9月、2002年2月～2004年6月、
2002年4月、2007年1月～2008年2月、
2007年3月～7月、2010年9月～2012年9月



- 我が国の東ティモールに対する国際平和協力業務は8件と、一国に対する国際平和協力業務としては最多となります。
- PKO活動や地域住民の生活に必要な道路・橋などの維持補修、警察行政事務に関する助言、選挙の公正な執行の監視、武力紛争の停止の遵守状況の監視、東ティモール避難民のための救援物資の輸送などの協力を行いました。
- 2002年から2004年までの国際平和協力業務では、自衛隊のPKO部隊要員として初めて女性隊員を派遣しました。
- 国連東ティモール・ミッション（UNAMET）に、投票の広報用としてラジオを提供しました。



・物資協力の事例



南スーダン（2011年11月～）



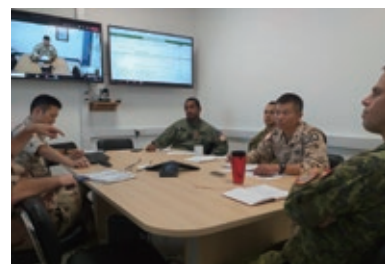
- 我が国は、2011年に独立した南スーダンに設立された国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)へ司令部要員を派遣し、現在、兵站、情報、施設、航空運用の各業務の企画・調整などを行っています。
- また、2012年1月から2017年5月まで、施設部隊等として延べ約4,000人を派遣し、道路などのインフラ整備などを行いました。
- さらに、UNMISS に対し、我が国の施設部隊の重機（例：ブルドーザー、パワーショベル）などを譲渡したほか、南スーダンで活動する政府間開発機構（IGAD）に対しテントなどを譲渡しました。



シナイ半島（2019年4月～）



- 我が国は、2019年から、エジプトのシナイ半島で活動する多国籍部隊・監視団(MFO)に司令部要員2名を派遣しています。
- 司令部要員はエジプトやイスラエルの政府その他の関係機関とMFOとの間の連絡調整を行っています。
- MFOへの派遣は、国連のPKOと同様の活動を行う国際連携平和安全活動への初めての協力となります。なお、人的協力以外では、1988年度から財政支援も行っています。



国際平和協力の30年

【凡例】

国際連合平和維持活動に対する人的協力

国際連携平和安全活動に対する人的協力

人道的な国際救援活動に対する人的協力

国際的な選挙監視活動に対する人的協力

1～29 物資協力（色は人的協力と同じ分類）

※Bーボスニア・ヘルツェゴビナ

Tー東ティモール

1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	
★国際平和協力法制定					★人道救援物資備蓄制度発足					
アンゴラ		エルサルバドル		ゴラン高原						
カンボジア		T								
モザンビーク										
ルワンダ				T						
				アフガニスタン						
				B						
				B						
				T						
1		2		3		4		5		
6		7		8		9		10		
11		12		13		14		15		

1 2 カンボジア 3 モザンビーク 4 ルワンダ 5 ゴラン高原 6 7 コンボ 8 9 東ティモール 10 11 12 アフガニスタン

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011		
ゴラン高原											
T				T		スーダン				南スーダン	
								ハイチ			
								T			
						ネパール					
イラク		イラク									
T				コンゴ民主共和国		T	ネパール		スーダン		
13		14		15		16		1718		19 20 21	

13 18 イラク 14 15 17 19 スーダン 16 21 スリランカ 20 パレスチナ

2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
ゴラン高原									
南スーダン									
ハイチ									
T									
							シナイ半島		
22	23	24	25	26	27	28	29		
				K	K	K	K	V	U
				K	K	K	K	V	O

22 ハイチ 23 スーダン 24 ゴラン高原 25 シリア 26 27 28 29 南スーダン

我が国が教官等を派遣した国連三角パートナーシップ・プログラム（UNTPP）

【訓練場所】 K：ケニア V：ベトナム U：ウガンダ O：オンラインで実施

詳細はこちら 人的協力と物資協力の詳細は「平和への道（発行：令和2年3月）」（PDF形式：4.1MB）

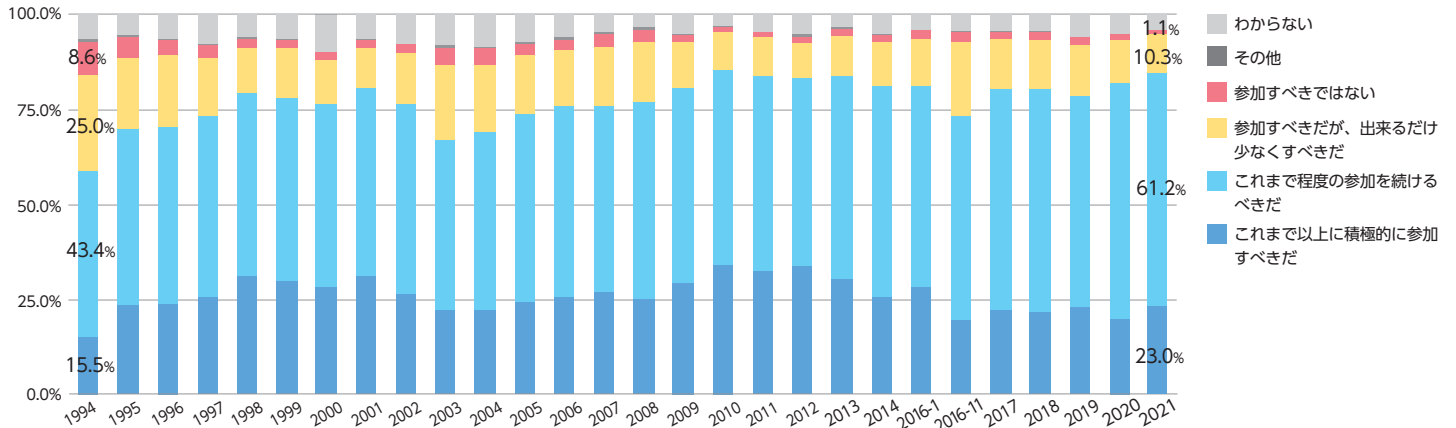
https://www.cao.go.jp/pko/pko_j/info/other/pdf/pamphlet2020/pko_pamphlet2020.pdf
のP6～7とP10～11をご覧ください。

QAコーナー

Q 1：国際平和協力法による国連PKOなどへの参加について、どのくらいの人が賛成しているのですか？

A 1：2021年の調査で、9割以上の人が賛成（参加すべき）としています。

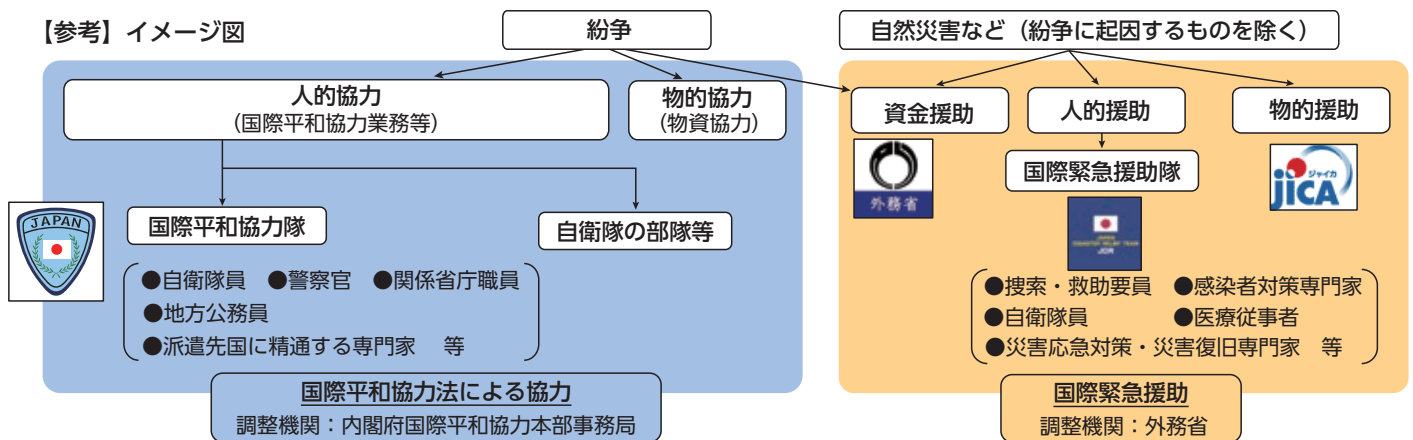
【参考】国連平和維持活動などへの参加に対する質問の回答
(1994年～2021年「外交に関する世論調査」、内閣府実施)



Q 2：海外で地震などが起きた時に、我が国の国際緊急援助隊が活動していましたが、国際平和協力法に基づく活動とはどう違うのですか？

A 2：国際平和協力法による協力は、紛争に起因するものに対応するもので、国際緊急援助は基本的に（紛争に起因しない）自然災害などへの対応になります。

【参考】イメージ図



Q 3：国際平和協力法で国連PKOへ直接参加する以外に、国連PKOに協力する取組みはありますか？

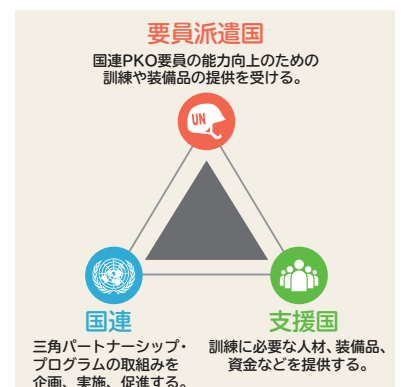
A 3：PKOに参加する国（要員派遣国）の参加者に対し、訓練支援を行う「国連三角パートナーシップ・プログラム (UNTPP)」という取組みなどがあります。

【参考】国連三角パートナーシップ・プログラム (UNTPP)

近年の国連PKOにおいて、PKO要員の能力や技術が不十分であることが深刻な問題となっています。我が国は、こうした問題に対応するため、2014年9月の国連PKOハイレベル会合において、安倍総理大臣（当時）から工兵（施設）部隊の装備品及び各国要員の教育等の貢献策を表明しました。これを受けて始まったのが、財政支援・教官派遣等を行う支援国（例：日本）と、企画・実施を行う国連が連携し、PKOに参加する国（要員派遣国）の要員・部隊に対して訓練を行う「国連三角パートナーシップ・プログラム (UNTPP)」という取組みです。

我が国は、この取組みに対し、財政支援に加え、2015年以降、施設・医療分野の知見がある自衛隊員延べ約230名を教官等として派遣し、アジア・アフリカ等の要員計約360名に対する訓練を行いました（2021年11月末時点）。

（※これまでの実績は6ページ参照）



国際平和協力隊員の声



- ① 東ティモール選挙監視国際平和協力隊
選挙監視要員（2007年5月～7月）
- ② ネパール選挙監視国際平和協力隊
選挙監視要員（2008年3月～4月）

[現] 青山学院大学 国際政治経済学部
助教 田中（坂部）有佳子

派遣先では、政情が不安定で直前まで暴力が多発していたため、安全が確保され、人々の意思が投票を通じて代表者の選出に反映されるかが重要な課題でした。

赤子を抱く女性や高齢者も含め、人々が朝早くから投票所前に並びといった、日本ではみられないような状況を目の当たりにし、選挙への関心の高さがうかがえました。引き続き、世界各国において人々が平穏な暮らしを取り戻すためにも、非暴力による政治的競争が進められることを願っています。



- ① ネパール国際平和協力隊
UNMIN軍事監視部門
（2008年3月～2009年3月）
- ② スーダン国際平和協力隊
UNMIS国連事務総長特別代表室
（2011年4月～7月）

[現]（陸上自衛隊）国際活動教育隊
共通教育科長 3等陸佐 日下 耕

ネパールやスーダンといった海外での勤務は、自分や日本のことを客観的に眺める機会にもつながり、日本人の所作や考え方、自衛隊勤務において身に付ける自衛官としての仕事の作法や軍事合理的な思考方法などが、世界で通用することを体感しました。

これらの貴重な経験を通じて私なりに体得させていただいた国際平和協力活動マインドは、現在の私の勤務に活かされています。



- ハイチ派遣国際救援隊 カウンセラー
（2011年2月～8月）

[現]（陸上自衛隊）西部方面総監部
防衛部付（看護官）
1等陸尉 竹田 妙子

ハイチ到着から間もなく東日本大震災が起き、カウンセラーとして隊員のケアに必死でした。

また、娘の成長過程で重要な時期と派遣が重なることについては、複雑な心境でしたが、娘は「寂しい想いもしたけれど、看護官のママを誇りに思っている」と言ってくれました。

女性自衛官の活躍がより一層期待される中、私や家族の経験を踏まえ、後輩に柔軟なサポートや指導ができ、有意義な活躍ができる環境を醸成していきたいと考えます。



- グラン高原派遣輸送隊長
（2012年8月～2013年1月）

[現] 陸上幕僚監部 人事教育部 補任課
人事第2班長 1等陸佐 萱沼 文洋

その瞬間の隊員たちの目が忘れられない。

私が政府のUNDOF撤収決定を告げると、隊員たちは大きく目を見開き、押し黙った。沈黙の後、一人が口を開いた。

「いつ戻って来られるのでしょうか？」

彼らは、誇り高きピースキーパーだったのである。

派遣開始以来、我々に寄せられる信頼は、いつしか誇りとなっていた。

そうであればこそ、任務に携わった人々の想いが、隊員にあの言葉を言わしめたとも感じるのである。国際任務への使命感もまた、一朝では醸すことはできない。



- [現]シナイ半島国際平和協力隊
MFO司令部 連絡調整部副部長
（2021年5月～現在）
2等陸佐 林田 賢明

当初は、エジプトの文化や多国籍部隊ならではの苦労もありましたが、相手を尊重し、お互いに理解することで、共通の目標に向かって任務を遂行できること、また、これまでの勤務で培った経験に基づき、状況に応じてバランスをとりながら業務を行うことで、十分に多国籍部隊において役割を果たせたと実感しています。

今後も、関係者との信頼関係を維持しつつ、エジプト・イスラエルの平和のため、役割を果たしていきたいと思います。



- [現]南スーダン国際平和協力隊
UNMISS ミッション支援部 施設課
（2021年8月～現在）
3等陸佐 有蘭 光代

当地では、日本の部隊撤収後も、日本隊の仕事ぶりを評価し、懐かしみ、話しかけてくれる方は多く、その信頼貯金のお陰で現在円滑に仕事ができていると感じています。

私が携わる主要幹線道路の整備は、人、モノ、食料、医療へのアクセスを可能にするとともに、治安の改善や人的交流を促す平和構築プロセスそのものです。自らの仕事が「誰のどんな問題を解決するか」を考えることで、地図と心に残る仕事に繋がると信じています。この日の丸への信頼貯金、私も積み立てていきたいです。

表紙の写真（上段）左上：2020年南スーダン 右上：2005年グラン高原
左下及び右下：2013年南スーダン／（下段）2011年 スーダン
写真提供：防衛省

編集：内閣府国際平和協力本部事務局
発行日：2022年（令和4年）2月

上記は概要版です。それぞれの全文をウェブサイトに掲載しております。



https://www.cao.go.jp/pko/pko_j/liaison/pko30_peacekeepers.html